

### 構成ポイント

#### 可用性

- 24H/365Dで運用を想定し、CodeComit、CodeBuild、CodeDeployを用いたダウンタイムゼロのリリースが行える構成とする。
  ただし、大規模改修やDBの大幅変更などシステム停止が必須となる場合は、26-5時のメンテナンス時にリリースとなる。
- 障害対応としてマルチAZの構成とする。 国内リージョンで構成するため、東京リージョンのみ となり、マルチリージョンは非対応となる。 \*マルチAZに対応した大阪リージョンは2021年初頭リ リース予定

## 回復性

• 障害復旧は12時間以内を想定し、リカバリーポイントは前日バックアップ時点とする。

#### 性能・拡張性

- ECS、Rambdaについてはマルチインスタンスが可能で、負荷状況によりスケールアウト・インにて対応できる構成とする。
- 拡張が必要となった場合は、インスタンスのスケールアップ、ダウンにて対応する。
- RDSについては、現在Masterのみの想定であるが、 CRM要件により参照負荷が大きい場合は、リードレプ リカ構成とする。

## 運用・保守性

- 運用の利便性を考慮してECS(Fargate)を採用する。
- ECSクラスタはユーザアクセス用と管理画面用の2つが存在し、ALBのpath設定でアクセスを分岐させる。
- AWSの監視機能を使い、サーバの死活監視やリソース監視を行う。
- 各種ログをCloud Watch Logsに集約し、メトリクスフィルタにてアラート監視を行う。
- 外部システムへはNAT Gatewayを利用することで、外部アクセスへのIPアドレスを固定化する。

# <u>セキュリティ</u>

- IAMによる権限制御を行い、ALBログ等のアクセスログを補完し、不正追跡可能な構成とする。
- WAFを導入しSQLインジェクション、クロスサイトスクリプティングといったアプリケーションレイヤーの防御を行う。

\*AWS Shieldを導入し、DDos攻撃等のインフラストラクチャレイヤーの防御を行うかは所管様インフラ部門と検討させて頂く。